

- 水俣病資料館に、「水俣を子どもたちに伝えるネットワーク」から寄贈を受けた、網に張られた“感想カード”と“群詩”を展示しています。

群詩 「朽ちない言葉の網」



階段下のフロアに展示

さがみはら開催（会場：グリーンホール相模大野・多目的ホール 会期：2010年2月11日～17日）の関連企画【ポエトリー・リーディング 詩と写真】（日時：2月16日 19:00～20:30）において作成された群詩

- ここでは、群詩の一部を紹介します。続きは、水俣病資料館にてご覧ください。

群詩⁽¹⁾ 朽ちない言葉の網

編集 島田 啓介⁽²⁾

私は、2年に1回ほど入院します。病弱で車イスで過ごしています。今日、力をもらいました。
 私は、心臓の病気で苦しんでいます。手伝えることがあったらしたいです。
 私の妹は脳性まひで、今までいろいろな差別を受けてきました。痛いほど気持ちが伝わってきます。
 私は、明日入院します。そして手術で両方の乳房を取ります。でも、勇気をもらいました。
 水俣出身の者です。水俣で22歳まで育ちました。ある写真の撮影日が偶然、自分の生年月日と同じ、1973年6月20日だった。

胎児、生まれる、いのちの輝き
 不安・・・梳いても梳いても振り払えない悲しみ
 怒りや悲しみ、悔しさ。忘れない

生の力強さ。たゆとうている
 今日直接、出会い、初めて知って、
 あるべきところに戻っていく



⁽¹⁾ 写真展会場には、水俣・杉本雄さんから届けられた漁に使う網が飾られていました。また、海の幸になぞられたカードが用意され、来場者にその感想を書き込んでもらい、網に付けてもらいました。その感想カードに書かれた言葉をひろい、ひとつの詩の形にしたものです。

⁽²⁾ 島田啓介（しまだ けいすけ）群馬県生まれ。体と心の癒し所「ゆとり家」主人。神奈川県伊勢原市で半農・半カウンセラー暮らし。副業で英日翻訳・大学講師（異文化コミュニケーション）。相模大野をはじめ各地で自作詩によるポエトリー・リーディングを行う。今回は、会場の感想からひろいあげた言葉をつなげて詩に織り上げてくれました。